

“とりあえずスタチン”から脱却!

動脈硬化性疾患 一次予防・最新の考え方

心疾患、脳卒中はわが国の死因の上位を占め、超高齢社会に突入したわが国ではこれら循環器疾患の一次予防に資する医療の発展・普及が望まれます。循環器疾患のなかでも冠動脈疾患やアテローム血栓性脳梗塞は粥状動脈硬化を基盤とする“動脈硬化性疾患”ですが、近年のわが国では脂質異常症・糖代謝異常・肥満（メタボリックシンドローム）の増加や、動脈硬化性疾患自体の増加を示唆する報告があり、学童・青少年期から生涯にわたった動脈硬化性疾患予防の必要性が叫ばれています。このような時代の要請に応えるべく、2022（令和4）年に『動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022年版』が日本動脈硬化学会から発刊され、翌年『2023年改訂版冠動脈疾患の一次予防に関する診療ガイドライン』が日本循環器学会から発表されました。しかし、これらのガイドラインを隅から隅まで熟読するのは、忙しい臨床家にはかなり容易ではない面もあると思います。

そこで本特集では、最新の科学的知見や臨床の現況も網羅しながら、特にプライマリ・ケア医など、循環器疾患の診療が専門ではない臨床医も想定し、動脈硬化性疾患を取り巻く幅広い分野を「疫学」・「診断」・「治療」・「生活習慣」・「トピックス」の範囲から計25セクションに分け、各セクションの最新情報について当該分野の専門家から解説していただきました。執筆にあたり、これまで本誌に寄せられた読者諸氏からの疑問にも可能な限り答えていただき、図表などで理解しやすい内容となるよう配慮いただきました。

昨今の科学的知見の進展、医療技術・治療モダリティの臨床応用や医療制度の変化は目まぐるしく、うっかりしていると時代に取り残される懸念を私自身が感じます。例えば、わが国の家族性高コレステロール血症（familial hypercholesterolemia：FH）は従来考えられていたより高頻度（一般人口300人に1人）であると判明したこと、診断基準も改定され医療保険による遺伝子診断が施設要件付きで可能となったことな

ど、多くの新展開がみられます。また、ご執筆いただいた先生方の経験や洞察に裏打ちされた考え方および臨床判断が読み取れるのも、ガイドラインでは得られない本特集の魅力だと思います。

動脈硬化性疾患一次予防では、改善可能な危険因子を網羅的に管理する“包括的リスク管理”の概念が強調されています。本特集のキャッチフレーズである「“とりあえずスタチン”から脱却！」が示唆するごとく、動脈硬化性疾患の予防・治療には脂質管理のみならず、他の危険因子の十分な管理、生活習慣の改善、環境への対応、患者・家族教育などの幅広いアプローチが求められる時代となりました。そのような時代のニーズに本特集が応え、先生方の診療の一助になれば幸いです。



藤吉 朗
(和歌山県立医科大学
衛生学講座)



吉田 博
(東京慈恵会医科大学
臨床検査医学講座)